

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100205		
法人名	株式会社ニッコー・ケイサービス		
事業所名	グループホーム紫陽花		
所在地	神戸市東灘区住吉山手2丁目11番26号		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	平成26年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://seikatuno">seikatuno</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成26年3月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個人を大切に、個人の意見、意思の尊重と共に自己決定を尊重するように努めています。施設内では、生活レクとして、利用者様各自が出来る事をスタッフと共に出来る場所をサポートしながら、お手伝い頂くように声掛けし、出来ないところは、出来るように誘導する。スタッフが手を貸す。利用者様に教えてもらい、手伝ってもらい助かった、利用者様がまだまだ出来る、役に立てるという気持ちを持ち続けてもらえることを支援している。年齢と共に外出することが億劫になり、外出したくなる気持ちを日々の日課として、施設の近くをお散歩することを徹底しています。また、四季を感じるために行事、まつりごとなど、日常生活の中で従来、行われて来たと思われる生活習慣を大切に日々の暮らしの中に取り組みんでいます。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成25年7月に開設された施設は、閑静な住宅地に立地し、近隣に公園や水車などがあり、散歩が楽しめる。管理者は生活の場であることを認識し、日々の生活の中で自立を妨げない支援や利用者ひとり一人への対応を大切にしている。その実践のため、認知症があっても、自分らしく生活ができるように寄り添い支援できる職員を育てることに力を入れ、実践指導や月に1回以上の情報提供、講習会などを実施し、職員のスキルアップに努めている。地域で生活することを重視し、外灯設置やAEDの設置の広報などを通じて、地域との関係作りの強化を進めている。希望すれば24時間対応の医療支援を受けることができる体制があり、重度化しても安心して生活できる環境整備も進めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年7月以降に理念を作成し、スタッフに浸透すべく努力している。各階フロアに掲載している。	利用者の自己決定を尊重し個々の対応に心がけるように理念を作成している。またスタッフのスキルアップを常に務めることも明記しており職員も理念を共有し実践に繋げるように努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所とは、交流しているが地域の一員になっていない。今後の課題です。	近隣の高校生がボランティアとして関わっている。また保育所から発表会の時に招待してもらったり来訪してもらったり交流を深めている。ホーム外の道路に街灯を設置する提案などを通じ、自治会や地域の方との連携を図りながら行政と調整している。	4月から自治会に加入することになっており散歩や外出を通じて地域の一員としての地位を確立しつつあり、今後益々地域との付き合いを深めて行けるよう地道な地域活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーターの講師をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より出された貴重な意見をサービス向上に活かしている。	家族からの要望で認知症に効果のあるリズム体操を取り入れて実施している。AEDを設置したのを契機に民生委員から地元でもAEDが使えないかとの打診があり地元の方でも利用出来るように調整している。偶数月に必ず会議を実施しホーム内に広報している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には、連絡していないが市町村との協力関係を築くよう取り組んでいる。	東灘地区のグループホーム連絡会に参加し神戸市職員とも情報を共有している。地域のネットワーク作りに参加し震災や災害に関する対応方法やその他の地域情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を何度も行いスタッフに理解してもらっている。玄関は、仕方なく施錠している。	フロア会議で勉強会を行い職員間で拘束禁止を共有している。5階6階が高齢者向け住宅となっており防犯上の理由で玄関は施錠している。ホームとしては帰宅願望の強い利用者へのケアも含め安全確保での対応の必要性との認識で捉えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記のとおり、学習会を行うことで事業所内での虐待防止に努めている。	職員の利用者に対する言葉使いや日頃の関わりの中で必要に応じて注意し合えるようにしている。身体拘束と同様に勉強会を行っており職員間での理解を深める取組を行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市成年後見支援センターのパンフ等を利用し、学習している。利用者様の状態に応じて支援している。	権利擁護の制度を活用している利用者がおられることもあり担当職員は制度に関しての理解はしている。他の職員に於いても利用者を通じて理解するように努めている。パンフレットも整備されており必要に応じて家族等に説明が出来るよう支援している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書と重要事項説明書の十分な説明を行い、その後疑問点を尋ね理解、納得してもらっている。	医療機関との24時間の連携体制など、医療に関してのサポート状況を説明し理解してもらっている。利用者に対して提供できるサービス内容やホームの方針等を丁寧に説明、十分に理解して貰った上、契約を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱等で意見また要望、運営推進会議等でご家族様が意見を述べられ、その場で検討したものを運営に反映させている。	運営推進会議での意見や要望を反映出来るように検討を行い改善につなげている。家族が訪問された時などにも意見や要望は聞くように心がけている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員が意見や提案しやすい環境づくりに努力している。フロア会議等で聞き反映させている。	主にフロア会議の時に職員の意見や要望を聞くようにし、出来ることから実行している。日頃の要望はその都度聞き反映出来るようにホーム内で調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働き甲斐のある職場環境条件の整備援助等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人のケアの力量を把握し法人内外の研修参加できるように援助等もやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加している。他のグループホーム主催の学習会にも参加。また、当施設の足湯に他施設の利用者様が参加され交流しサービスの質の向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話に傾聴し、容認することで信頼関係を築き安心して生活が出来るように心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話にも傾聴し、信頼関係を深める様努力している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自己評価をする項目に該当しない。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大人数の家族として据え日常的な生活作業を利用者様と一緒にいき食事等も職員と一緒に食べている。アットホームな雰囲気生活している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに本人を委せてしまわないようホームへ来所してもらうよう家族様に呼びかけている。墓参り、お正月、家族旅行等。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の人が来所しやすいよう環境づくり、また、生まれた場所、住み馴れた場所に本人と出かけ懐かしがられている。	利用者の友人・知人も機会が有る毎に訪問してくれている。日頃から利用者から行きたい所や馴染みの場所などの聞き取りをしており、ドライブ時には希望する場所に行くように支援している。日頃のコミュニケーションを大切にしながら聞き取りを充分に行うようにしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の座席等も考慮し、仲の良い利用者様同士が楽しく生活できるよう心掛けています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもこれまでの関係を断ち切らないよう心掛けていきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様の希望、意向を把握し、それを応えられるよう個別対応しご本人本位に努めています。	利用者の個人ファイルに日頃の情報を記載してスタッフが共有出来るようにしている。利用者の表情を見ながら意向の把握に努めている。スタッフ同士は個別日誌で情報を共有している。利用者の日々の暮らし方への意向や希望等の情報収集については、取組余地が窺える。	利用者や家族に対する思いや意向を実現する上で利用者のこれまでの生活歴など個人史の把握が不可欠でありセンター方式の活用や家族からの協力などをベースにした取組などの工夫に期待したい。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ馴染の暮らしが継続して頂けるよう生活歴の把握等に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った一日の過ごし方(個別に対応)してもらっている。ナース、スタッフで状況を要観察することで心身状態が残存能力の把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、医師、看護師、スタッフ等で話し合い現状に即した介護計画書を作成しています。	介護計画とモニタリングはライフサポートシートに纏められている。モニタリングは月に1回行いスタッフ会議で職員間の情報は共有している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	完全には出来ていないが何かと職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念に囚われず、個別に柔軟な支援やサービスに心掛けています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の名勝(桜・梅)灘目の水車、保育所の園児との交流など楽しんでいただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には24時間体制の医療をホーム提携の医師と行っている。従来のかかりつけ医へも看護師から、情報の提供等により信頼関係を作っている。	提携の医師は月に2回往診に来てもらっている。かかりつけ医に関しては看護記録を提示し日頃の医療情報が分かるように適切な医療受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のその日の状態を把握し、変化があれば、随時、看護師へ連絡し、指示を求めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院に頻繁に通い医療機関との情報交換や相談することで安心した治療、早期退院できるように努力している。	病院へのお見舞いは頻繁に行き医療関係者との情報を密にし、職員間で共有出来るようにしている。利用者が適切な医療が受けられるよう利用者の介護情報を提供するなど、家族と共に連携を図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	不十分ではあるが出来るだけそのような状態になる恐れのある利用者様の場合、ご本人、ご家族様、医師、看護師、職員とよく話し合い方針を支援に取り組んでいる。	施設長の方針の下、医療的な処置が難しい状況においては看取りまで出来る対応の検討を行っている。看取り支援の経験豊富な職員を中心に研修を行い、今後の対応に備えた取組を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが看護師の指導を受けています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っていますが地域との協力体制は、出来ていない。	夜間を想定した訓練もっており、今後は地元の協力も得た消防訓練の実現に向けての取組を望みたい。訓練の時には地域を交えてAED講習も行う意向である。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは、その都度気づいた点をスタッフに注意するようにしています。	利用者や職員間での言葉使いや言葉のトーンにも十分に注意を払っている。特にトイレ介助や食事介助の際には誇りやプライバシーに充分配慮した取組を行っている。職員間でも注意し合えるように日頃から話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるよう、促しながら声掛けするように指導していますが徹底されていないと思われる時があります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その利用者様のペースや希望、要望に合わせ、個別対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を毎朝なさる人には、職員が手伝ったりしている。洋服に合わせ、装飾品も日によってコーディネートしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もその利用者様の嗜好等を考慮して配膳、下膳しています。食事の盛り付け、片付け等は、利用者様と行っています。	有している力の活用に関心掛け、出来ることを手伝ってもらいながら職員と一緒に食事を楽しんでいる。お誕生会は手作りケーキを皆で作って楽しんだり、紅葉を見に行った時は外食をしている。利用者の意向を聞きながら食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を利用者様を要観察することで支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が誘導し、口腔ケアに努めています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その利用者様の排泄パターンを把握することで自立にむけた支援を行っている。リハビリから、布パンツへの変更に繋がっています。	排泄パターンを把握しながら個々の利用者の状態を見極め、自立に向けた排泄支援に努めている。夜は尿とりパットを利用し排泄改善に努めている。おむつを使用していた方で、排泄支援に於ける自立への改善事例が数例ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、天候の良い日は、散歩を行っています。体操により、お腹の体操をしたり、手の排便のツボマッサージ等も行っていきます。水分量を把握して調整しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制的に入浴してもらおうのではなく創意工夫しながら入浴してもらっています。それでも拒否の有る時は、無理に進めず日を変更する等の工夫を行っています。	週に2~3回は必ず入浴出来るようにチェックリストを作成している。入りたがらない方には声掛けを充分に行い入浴できるように促している。現在使用していない大浴場で足湯を楽しむことが出来る工夫の他、ゆず湯や菖蒲湯等で季節感を楽しくするように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、その方の生活習慣に応じた一日の生活を通してもらっています。調子を見て対応しています。ベッドが苦手な方は、絨毯に布団で安眠で見るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は看護師が行っていますが職員は、薬の用途、服薬に関しては、理解しています。看護師と除法交換しながら、医師の指示のもとに服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の力を考慮して対応しています。家事援助(炊事、洗濯、居室掃除等)		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気の良い日は散歩に出かけるように心がけています。その方の馴染みの場所に行くよう努めています。	他のグループホームのイベントに参加したり、短大のパイプオルガンを聞きに行ったり地元の祭に参加している。月に1回は外出するように心がけている。散歩については天候を見ながら、出来るだけ毎日行けるようにしている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、お金が無くなった等があるので、基本的には所持されていないが預り金で買い物にでかけ本人がレジで支払うよう支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には、電話していただいています。また、年賀状等をご家族様にだしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた飾り物を利用者様と作成し、飾ることで季節感を取り入れています。	玄関には雑飾りが並んでおり、施設全体はやさしい配色の家具やソファで統一されている。週に数回利用している地域交流スペースの居間は、大阪湾が一望でき、やさしく暖かい日差しが差し込んでいる。天気の良い日は屋上で洗濯を干したり、ベランダで野菜や花を栽培している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様と隣に座われたり、居場所の工夫をしています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた家具等をそのままに居室に持ちこんで従来の環境で安心して過ごせるようにしています。	一部制限はあるものの、原則居室への持ち込みは自由である。家族の写真や使いなれた椅子や机、寝具など馴染みの物を持ち込んで居心地の良い環境づくりに努めている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に手作りの表札。各、トイレへの案内、表示。居室の間取り図を貼ることで位置関係を把握して、自立した生活が送れるように支援しています。		